

八月臨時議会・九月定例会

8月臨時議会は、8月8日に開催され、教育委員人事が諮られ、同意しました。

9月定例会は、8月29日から9月21日までの24日間の会期中に開催されました。平成28年度の一般会計、特別会計および企業会計の決算認定を含め、22議案を審議しました。

こ
ん
に
ち
は

し も す わ 町 議 会

で す

♥♠♣ ◆ ここに注目 ◆ ♣♠♥

「新艇庫」建設に関わる議論…………… 3

28年度決算審査…………… 4

議会活動グラフィティ…………… 14

VOL.17 平成29年(2017)10月27日

編集／広報特別委員会 発行／下諏訪町議会

電話(0266)27-1111 FAX(0266)27-1237

<http://www.town.shimosuwa.lg.jp/www/genre/1000100000096/index.html>



町総合防災訓練では、要救助者役も真剣そのもの

9月定例会で総務常任委員会に付託された8議案は、すべて原案どおり可決しました。

空家等対策協議会条例を制定

総合的、計画的な推進を期待

空家等対策協議会 条例の制定

空家等対策特別措置法に基づき、空家等対策計画の作成及び変更並びに実施について協議する「下諏訪町空家等対策協議会」を設置するための条例。

本年度の取り組みとしては、実態調査を行い、空家情報を把握し、具体的な計画を策定する。

スケジュールは、10月1日以降委員選任後、協議会にて計画案を策定し、パブリックコメントを行い、協議会で詰め平成30年4月1日から施行する。

特定空家はフロアに沿って対応。協議会の事務局は建設水道課。空き家の所有者に対しては助言指導や除却業者を紹介し、動きがない場合は催告するか、出来るだけ助言指導で収める努力をしていく。

討論では、空き家に対する苦情もあり、景観上も問題。トラブルの無いように進めて欲しい。今後も空き家は増加傾向にあるので特措法に則って活動に期待するとの賛成討論があり、挙手全員で可決。



儀象堂を指定避難所に

平成29年度一般会計補正予算（第3号）は、歳入歳出それぞれ7655万円を追加し、歳入歳出予算の総額を、歳入歳出それぞれ77億2390万8千円とするもの。

また、「地方債補正」は、儀象堂を災害時の指定避難所にしたことに伴う、空調設備等改修工事の財源を「観光施設整備事業債」に、また旧武藤工業土蔵改修工事の財源として「社会教育施設改修事業債」を追加。

家庭用災害備蓄品は頒布を一旦終了するが、若干残数がある。

「ふるさとまちづくり寄附金」は、91件、535万円を賜ったもの。制度が創設された平成20年度以降の累計は325件、4715万2千円となった。

質疑では、「ふるさとまちづくり寄附金」に対する返礼品の主なものは時計、オルゴール、リングなど全部で89種類。寄附者は、東京、大阪などの都市部が多い。活用分野は町の総合計画に照らし決定。観光施設整備事業債1990万円は、儀象堂の改修工事に合わせて有利な起債を活用して、避難施設として設備の増強を図るもの。緊急防災・減災事業という有利な

起債で充当率100%、後々の交付税措置率は70%で町は30%の負担ですむ。観光客の避難所は以前より検討中だった。今後もおんばしら館「よいさ」など順次整備していく。避難施設の案内看板表示は、工事が進んだところで順次整備したい。指定後の運用が重要視される。

討論では、家庭用災害備蓄品購入は町民の防災意識高揚に繋がる。儀象堂の工事は故障している空調やトイレの修繕などで理解できる。儀象堂とおんばしら館「よいさ」が災害時の観光客の指定避難所に定められたが、誘導や案内看板の設置などが課題。ふるさとまちづくり寄附金は、有効に活用される計画なので賛成などの討論があり、挙手全員で可決。



改修予定の儀象堂

生活文教常任委員会に付託された5議案は、全議案を全会一致で可決しました。

子ども医療費窓口負担500円に 高校卒業までは町独自で継続

福祉医療費現物給付に

現在は「自動給付方式」を採用。平成30年8月から県内全市町村が中学校卒業までを対象に「現物給付方式」になるが、当町では現在の高校卒業までのままで改正。

質疑で、窓口では500円の負担のみで、院内薬局は無料のため利便性が向上。院外薬局は更に500円が必要なることを確認。

討論では、福祉医療の中には「自動給付方式」が残る部分もあり完全窓口無料化を要望する意見も出され、挙手全員で可決。

「現物給付方式」とは

窓口で500円の負担で診察が受けられる。従来の「自動給付方式」では、窓口で一旦医療費を支払い、後日500円を控除した金額が還付される。対象は、年齢18歳に達する日以後の3月31日まで。なお、障がい者、母子・父子の親、寡婦家庭の親などは今回対象外。

「ストラックライン」とは

二点間に張り渡した専用ラインの上で楽しむスポーツ用の器具。

新艇庫設計委託料予算化

こども未来基金へ102万円を積立。小学校就学援助事業費97万4千円は、国の支給単価の見直しに伴う予算の不足分と、平成30年度に入学する児童への入学準備金。中学校就学援助事業費143万8千円も同様。

旧武藤工業土蔵改修工事請負費の1413万8千円は、製糸業が栄えた頃の面影を残す土蔵と周辺土地を、町へ寄附頂いたための改修費。生涯スポーツ振興事業費82万円は住民が運動・スポーツの実施率の向上を図るもので、バランス感覚を養うストラックライン、室内用のフィットネスバイク2台を購入。

2270万円は、新艇庫建設工事実施設計委託料。

新艇庫について
は2020年、東京オリピック・パラリンピックが開催される前年、平成31年



新艇庫建設予定地を視察

度のできるだけ早い時期に完成させることを目指す。河川占用許可申請が必要なることから、県との協議を同時



改修予定の土蔵

進行を進めている。建設地の造成と諏訪湖へ艇を出すためのスロープを完成させ、平成31年度当初から建設工事に取りかかるための補正。県立の艇庫や県営を要望したが、断念。予算規模はできるだけ抑え、町民理解が得られるものにするとの説明。

将来的には、防災拠点の機能の検討や健康スポーツゾーン構想の中で、鍊成の家や周辺を整備。現在のプレハブは解体し駐車場に。健康運動指導士の増員も検討。

討論では、新艇庫の実設計委託料は、全体像が見えにくいので、住民に充分説明をしてほしい。土蔵は管理面で検討を要するが、歴史の町しむすわにふさわしいものが保存され、観光面や文化財の活用が見込めるので賛成などの討論があり、挙手全員で可決。

2つの特別委員会で審査

で審査しました。

の各議員。「特別会計決算審査特別委員会」は、藤森◎・中村光良○・長、中村奎司監査委員はオブザーバー。

実質収支は約3億5千万円の黒字

一般会計歳入総額は約83億円に

一般会計決算審査特別委員会

医療費18歳まで無料に 湖周クリーンセンター稼働

住民環境課 ①「あざみ号」は7路線41便運行されていますが、利用者は前年度比890人の減。利便性の向上に努めて欲しい。②子どもの福祉医療の対象年齢が、高校卒業まで引き上げられた。子育て支援策の前進と評価。③湖周クリーンセンターが、稼働開始。

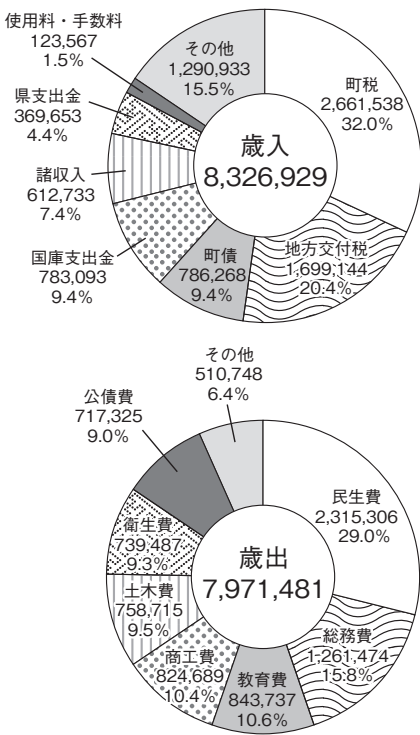
「ゆたん。歩」好評

健康福祉課 ①「ゆたん。歩」入場者年間約4万2千人で好評。健康増進に期待。②福祉タクシー券等助成では、選択肢に入浴券も追加し、評価。③生活習慣病検診事業を積極的に。重症化を防ぎ、医療費の削減を。

税金・収納率が若干上昇

税務課 ①町税は26億6153万7704円で前年度比0・53%の増。②収納率は0・36%と若干上昇。

●一般会計 (単位：千円)



中学生の海外研修を実施

教育こども課 ①図書館の利用が減少。要因は御柱年とシステム更新に伴う開館日の減。②下諏訪体育館備品であるマット・鉄棒・段違い平行棒など、28年度から3年計画で整備。③中学生のニュージールランド研修実施。④埋蔵文化財センター改修工事実施。今後の教育面、観光面の活用に期待。



英語のみの授業にドキドキ

防災リハビリセンター跡地を購入

産業振興課 ①移住定住促進室の設置、移住交流相談、nee nee center Sumeba 開設に伴うモニターツアーなどを評価。②防災リハビリセンター跡地の購入は、今後の活用に期待。③儀象堂の入館料減少するも、時計づくりの体験料が伸び、合計では上昇。④おんばしら館「よいさ」は御柱年で順調な入館者数。⑤ものづくり支援センターは実績上昇し、これからも期待。

防災公園整備を継続 道路補修を職員自ら

建設水道課 ①防災公園(赤砂崎・駅前)の整備が行われた。防災備蓄品の更なる充実を。②道路維持について、小規模のものは職員が春・秋、5班編成で補修。すみやかな対応を評価。

消防車両を3台購入

消防課 ①消防団無線を27年度から2年計画で整備。②消防団車両で第3分団、第6分団及び第7分団の3台、小型動力ポンプ1台を新規購入。

町民講演会「さかなクン」好評

総務課 ①地方交付税は16億9914万4千円。前年度比9873万5千円の減。②職員の健康診断受診率は高いが、所見がある職員が増えている。③婚活事業は4回のイベントを実施。男性48人、女性47人が参加し、19組のカップルが成立。④町民講演会は環境をテーマに、「さかなクン」を招き開催。900人が聴講。

平成 28 年度決算を

28年度の決算について、「一般会計」「特別会計」それぞれを特別委員会「一般会計決算審査特別委員会」は、岩村◎・小池○・金井・河西・宮坂青木・森・田嶋の各議員で構成しました（委員長◎、副委員長○、林議

9 会計を審査し すべてを認定

特別会計決算審査特別委員会

● 特別会計

会計名	年度	歳入	歳出
国民健康保険	28	25億1,257万円	25億1,257万円
	27	26億1,997万円	25億8,231万円
駐車場事業	28	816万円	698万円
	27	966万円	729万円
後期高齢者医療	28	3億3,436万円	3億3,331万円
	27	3億1,372万円	3億1,321万円
交通災害共済事業	28	1,625万円	496万円
	27	1,623万円	684万円
温泉事業	28	4億2,717万円	3億8,431万円
	27	4億4,231万円	4億 316万円
特別養護老人ホーム事業	28	2億5,072万円	2億5,072万円
	27	2億1,928万円	2億1,928万円
東山田区財産	28	203万円	113万円
	27	266万円	148万円

国保3000万円を法定外繰入

国民健康保険特別会計 歳入決算額は約25億円で減少。要因は後期高齢者に移行する人が多く、被保険者数が前年度比320人減少。全体の収納率は86・1%で前年度比1・09%アップ。当町では初めて3000万円の法定外繰り入れを行い、基金残高は3285万1803円となった。平成30年の広域化による保険税の増額が予想され、厳しい運営を余儀なくされている。討論では、滞納も減少している。国保財政の健全維持に努められたいとの賛成討論あり。

駐車場事業特別会計 近隣に小規模な駐車場ができ、定期利用者が減り、使用料が減少。しかし、歳入歳出差引額約118万円の赤字。討論では、定期利用者の増加を心がけて欲しいとの賛成討論あり。
後期高齢者医療特別会計 保険料の収納率は98・94%で、前年度比

0・07%の増。一人当たりの医療費は87万円（全国平均は93万円）。討論では、益々高齢化が進む中で、国保から後期に移行する人が多くなるとともに、医療費は予測できないこともあるが、安定的に運営している努力に感謝との賛成討論あり。

交通災害共済事業特別会計 会員は887人減少し、口数で1190口減少。個人情報保護法の関係で加入用紙が記入式になり、煩雑になった影響が大きい。

討論では、支えあいの制度で、町民の半数以上が加入していることは自慢に値する。そのことをPRして、交通意識の高揚と事故防止につなげていくことが必要、健全な運営を望んで賛成との討論あり。
温泉事業特別会計 一般会計からの借入が約12億7千万円あり、7年計画で返済しているところ。

討論では、温泉は下諏訪町の宝であり、多くの町民や観光客に提供しているように健全な運営をとるの賛成討論がなされた。

特養エアコンや照明も新しく快適に

特別養護老人ホーム事業特別会計 現在56床で運営。下諏訪町で31人の待機者がある。多床室プライバシー保護改修工事が実施され、エアコンや照明も新しくなり、環境が改善された。



特養でのプライバシー保護改修工事を視察

天白は入所希望が多く、職員のきめ細やかな対応や経費削減努力がなされているなどの賛成討論がなされた。

水道事業会計 営業収益や給水人口が減少。27年度は500万円の赤字だったが、人件費削減などの経営努力で純利益68万円の赤字に転換。アセットマネジメントを基に、将来を見据えた経営戦略を立てる予定。

決算赤字も滞納が増加

下水道事業会計 下水道普及率は99・9%。純利益は約1千万円。滞納が増加傾向にあり、懸念材料。

討論では、純利益が出ているのは経営努力、滞納整理にも丁寧に対応しているとの賛成討論あり。

一目でわかる議決結果 8月臨時会

議決結果

議案第52号	教育委員会委員の任命について	同意(全員)
--------	----------------	--------

一目でわかる議決結果 9月定例会

議決結果

議案第53号	下諏訪町空家等対策協議会条例の制定について	可決(全員)
議案第54号	下諏訪町個人情報保護条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第55号	下諏訪町行政手続における特定の個人を識別するための番号の利用等に関する法律に基づく個人番号の利用及び特定個人情報の提供に関する条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第56号	下諏訪町職員の育児休業等に関する条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第57号	下諏訪町福祉医療費給付金条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第58号	下諏訪町特定教育・保育施設及び特定地域型保育事業の運営に関する基準を定める条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第59号	下諏訪町都市公園条例の一部を改正する条例について	可決(全員)
議案第60号	平成29年度下諏訪町一般会計補正予算(第3号)	可決(全員)
議案第61号	平成29年度下諏訪町国民健康保険特別会計補正予算(第2号)	可決(全員)
議案第62号	平成29年度下諏訪町特別養護老人ホーム事業特別会計補正予算(第1号)	可決(全員)
議案第63号	平成28年度下諏訪町一般会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定(全員)
議案第64号	平成28年度下諏訪町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定(全員)
議案第65号	平成28年度下諏訪町駐車場事業特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定(全員)
議案第66号	平成28年度下諏訪町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定(全員)
議案第67号	平成28年度下諏訪町交通災害共済事業特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定(全員)
議案第68号	平成28年度下諏訪町温泉事業特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定(全員)
議案第69号	平成28年度下諏訪町特別養護老人ホーム事業特別会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定(全員)
議案第70号	平成28年度下諏訪町東山田財産区会計歳入歳出決算の認定を求めることについて	認定(全員)
議案第71号	平成28年度下諏訪町水道事業会計決算の認定を求めることについて	認定(全員)
議案第72号	平成28年度下諏訪町下水道事業会計決算の認定を求めることについて	認定(全員)
議案第73号	平成29年度ゆたん歩°南源湯場施設整備工事請負契約の締結について	可決(全員)
議案第74号	高木3号井揚湯ポンプ購入契約の締結について	可決(全員)

※主な議案の審査内容は、2～5Pをご覧ください。

陳情審査結果

平成29年陳情第9号	私立高校に対する公費助成をお願いする陳情	第1項：採択(全員) 第2項：趣旨採択(全員)
------------	----------------------	----------------------------

意見書案議決結果

平成29年意見書案第9号	私立高校への公費助成に関する国への意見書	可決(全員)
平成29年意見書案第10号	私立高校への公費助成に関する県への意見書	可決(全員)
平成29年意見書案第11号	核兵器禁止条約への参加を求める意見書	可決(全員)

9月定例会 議案等賛否一覽

※議案等について、賛成、反対・退席があった場合のみ表示しています

議員名(議席順) 議案番号等	議決等結果	林 元夫	岩 村清司	小 池忠弘	森 安夫	青 木利子	中 村奎司	田 嶋彰	金 井敬子	中 村光良	河 西猛	藤 森スマエ	宮 坂徹
意見書案第11号	可決(全員)	/	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○	○

可決に対する賛成者は「○」、反対者は「×」、退席者は「△」とします。議長は採決に加わらないため、「斜線」としています。

陳情・意見書の審議結果

陳情第9号

陳情者 中信地区私学助成推進協議会

私立高校に対する公費助成をお願いする陳情

私学は独自の建学の精神に基づき、個々の生徒の個性を育み、学習・文化活動、スポーツ、地域への貢献等に大きな成果を上げていますが、多くの保護者は公立との学費の差の大きさを実感しています。保護者の経済負担への配慮と、助成制度拡充の検討を求めるこの陳情は、毎年提出されて

います。

国・県に対し、就学支援金制度の拡充と私学助成の増額を求めてほしいという**第1項は採択**されましたが、保護者への直接補助を求める**第2項は、昨年と同様趣旨採択**となりました。



意見書案第9号

私立高校への公費助成に関する国への意見書

意見書案第10号

私立高校への公費助成に関する県への意見書

陳情第9号第1項の採択を受け、生活文教常任委員会から提案されたもの。それぞれ国、県に対し、就学支援金制度の拡充並びに私学助成の大幅増額補助を行うことを求める内容です。**全会一致で可決**されました。

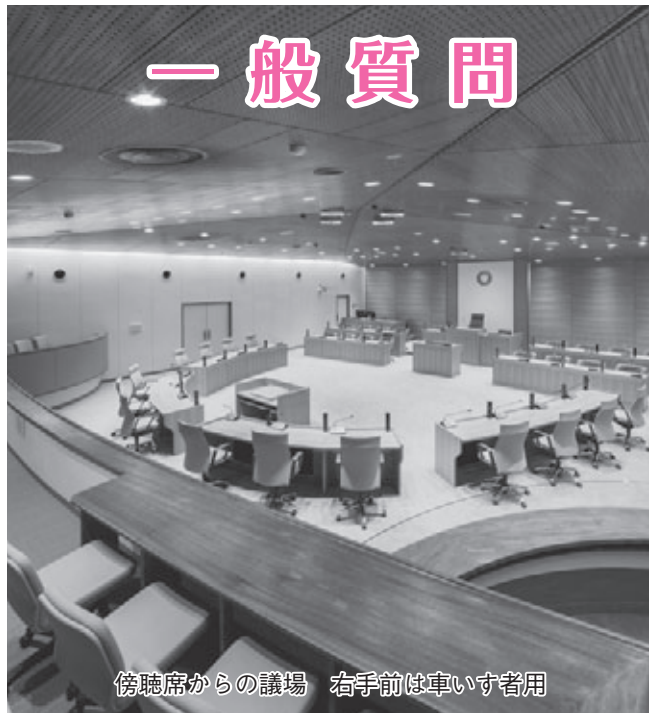
意見書案第11号

核兵器禁止条約への参加を求める意見書

去る7月7日、国連において国連加盟122カ国の賛成により「核兵器禁止条約」が採択されました。この条約は、核兵器の使用や開発、実験、生産、製造、保有、使用すると威嚇を禁止する内容ですが、日本政府は条約の協議・採決に加わず、核兵器禁止条約に背を向けています。本意見書は、日本政府に対して、「核兵器禁止条約」への参加を求める内容で、総務経済常任委員会から提案されたものです。

「核兵器には反対の立場ではあるが、この条約には核保有国は参加していないことから、政治宣言に終わる可能性もあるし、かえって核保有国と非保有国の対立を深めかねない。この瞬間だけの議論で判断するのは問題であり、意見書案の上程に反対」との意見と、「二度と再び原爆による惨禍を繰り返させないと願う被爆者の想いに寄り添うために、ぜひ採択したい」との意見が出され、採決の結果**全会一致で可決**されました。

一般質問



傍聴席からの議場 右手前は車いす者用

9月定例会の一般質問は11人が質問に立ちました。質問時間は答弁を含めて一人60分で行います。

- 8 P 中村奎司 議員
「小中一貫教育の是非の検討を」
- 9 P 小池忠弘 議員
「新ごみ処理施設、
運営状況と課題は」
青木利子 議員
「就任1年の公約実現について」
- 10 P 藤森スマエ 議員
「教育勅語を学校で使用するか否か」
森 安夫 議員
「27年国体誘致へ体育館新改築を」
- 11 P 中村光良 議員
「支え合い・助け合い
アンケートの活用を」
金井敬子 議員
「国連核兵器禁止条約
への町長見解は」
- 12 P 岩村清司 議員
「湖周2市1町の合併に関しては」
河西 猛 議員
「町長と語る会の実績は」
- 13 P 宮坂 徹 議員
「諏訪湖博物館の管理と運営方針は」
田嶋 彰 議員
「普通財産の貸し付け状況について」

Q 小中一貫教育の

是非の検討を

A かたくなに現状維持主張



中村 奎司

Q 少子化時代における学校教育において、新教育委員会制度に伴う町長の関与と責任はどう変わったか。
A 教育長とは懇談の中でいい形が出来ていると認識している。

Q 児童の減少に伴い、切磋琢磨の機会の減少・集団生活を前提とした教育活動がしにくくなる、というがその影響の認識はどうか。
A むしろ少子化を生かして、児童一人ひとりに取り組むことが、大切。

Q 全国学力テストの状況はどうか。点数を公表すべきではないか。
A 小中とも、国語・算数は全国平均以上、序列化につながるため、点数の公表はしない。

Q 5年後には北小は一クラスになる見込みと聞いている。今こそ小中一貫教育の導入の検討を始めるべきではないか。諏訪市では十年先を見据え検討に入った。

A 少子化で部活もままならないが、住民感情など模索をしながら、今の小中4校体制でいく。諏訪地域として、広い視野で考える事もある。



浮島の夏

浮島周辺の環境維持は

Q 万治の石仏・浮島周辺は当町のパワースポット。継続的に維持管理する体制を築いてほしい。
A 観光協会から、地元の方やシルバーの方にお願している。行き届かない面は直していく。

福祉タクシー券の用途拡大を

Q 住民の方から、タクシー券を社協で運行している車いすでそのまま乗り降りできる自動車の利用に使わせて欲しい、との要望があった。年離れた母親を少しでも外の空気に触れさせたいとのことだ。

A 今後も住民の意見を聴いて、検討していく。

Q 新ごみ処理施設、

運営状況と課題は

A ごみは減量、経費も軽減

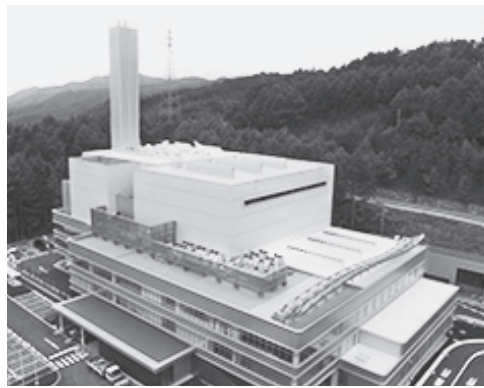


小池 忠弘

Q 湖周クリーンセンターが本格稼働されたが、ごみ減量化や売電状況、共同処理による運営費効果は。

A 昨年同期と比較し172トンの減量。売電収入は28年度実績で下諏

訪配分740万6461円になり、負担金で相殺される。今後の修繕等を別にすれば、経常経費の削減により運営費の軽減になっている。



昨年12月本格稼働した
諏訪湖周クリーンセンター

事業系可燃ごみ統一手数料金を

Q ごみ処理統一化が進まない。事業系可燃ごみの手数料は当町は10キロあたり200円、岡谷市、諏訪市は150円。他並に統一を。

A 統一化は施策の違いで進んでいない。さらに3自治体の部会で検討していく。町の事業系可燃ごみ手数料は来年度から引き下げを検討する。

新和田有料道路、無料化促進を

Q 割高感もあり観光や産業、交流の阻害要因。利用者負担軽減事業から無料化の早期実現促進を。

A 軽減措置も無料化が最大目標。

特定健診は体の通信簿

Q 特定健診の受診率の状況は。

A 平成29年度8月末現在では、対象者数約3744人に対し、1293人が受診(34・5%)。目標は県

東信側と連携し県に要望していく。

防災対策の更なる強化充実を

Q 災害対応で自主防災組織の強化、住宅耐震化の促進が求められる。期待される防災士にチョッキ、ヘルメット支給を。災害調査等で有効なドローン活用のため、協定締結したらどうか。

A 自主防災組織は各区で見直し中。耐震化率は現在73%ぐらい。補助額も上げた。2区から全戸訪問も始めていく。「防災士会」の立ち上げの話もあり、その中で要望があれば応えていく。ドローン活用は、協定締結も検討していく。

平均の受診率約45%だが、あと390人の受診が必要。

Q 具体的なPRは？

A 農業祭や下諏訪レガッタで血圧測定やメタボ測定等で広くPRする。またレガッタの練習や出場者には健康ポイント10を付与。特定健診と合わせて100ポイントにして特典と交換できるようにしたい。

Q 特定健診は体の通信簿と思うが見解を。

A 職員の受診率はほぼ100%。結果があまり良くないので、健康維持に心がけてほしい。

Q 就任1年の

公約実現について

A 公約の事業はすべて着手



青木 利子

Q こども食堂や居場所づくりの進捗状況は。

A 1人からの問い合わせ。要請があれば職員が出向き説明する。地域のみなさんから手を上げて欲しい。

Q 移動販売の実施は。

A 事業者からの提案で公約にあげたが、諸般の事情でできなくなった。全国でも苦戦し4割が赤字と報道される状況。当町は委託事業としたいが、検討には時間が必要。

Q 就任1年を前に見解を。

A 4期目として取って代わった。難しい公約を上げたが、事業はすべて着手した。中でもハード事業の「若者向けの住宅」はニーズを把握しプロジェクトで検討中。公約の「100%の満足度」の実現は難しい課題ではあるが、2年ぶりの「町長と語る会」を通して、直接意見を聞いていく町政運営が必要と再認識。



下諏訪レガッタ会場のPRブース

Q 教育勅語を

学校で使用するか否か

A 使うことはあり得ない



藤森 スマエ

Q 安倍政権は国会で、教育勅語の学校での使用容認の答弁をした。教育長、町長の見解を。

A 昭和23年の国会で「排除」が決められたもので「主権在民」の憲法

に反する。現在の義務教育では、丸ごと使うことはあり得ない。

Q 教員の多忙化で、研修が負担になっていないか。

A 初任者研修は300時間。補充教員が加配され、学級が自習になることはない。多忙であるが、自ら学ばせてもらうことに感謝し、のり越えることも教員の力量だ。

Q 家庭教育支援条例を町で制定する動きは。

A 「めざせしめすわっ子」を目標に取り組んでいる。平成24年度に家庭推進会議を立ち上げ、まとめてリーフレットを作成し配布している。子どもは地域全体で育てるべき。開か

必要。体育館の新改築や近隣市町との連携

A 今後とも必要な整備をする

Q 27年国体誘致へ

体育館新改築を



森 安夫

Q 2027国体の県内誘致が内々定した。前回は当町が、バレーボールとボートの会場になった。今回もボートに加え、バレーやトライアスロンを誘致しては。そのためには、



現在の下諏訪体育館

A ボートは確定的と思う。体育館は耐震化など順次進めている。トリアスロンは諏訪地域に誘致の動きがある。諏訪湖の浄化を進めること

れた学校を大切に、子ども達の健全な育ちを見守りたい。



Q 習熟度別授業をやっているか。少人数学級で、行き届いた授業を望むが。

A 算数、数学でグループ化したことや、コース設定など課題もあるが、クリアし、誘致出来たら良い。

将来に向けての工業振興支援を

Q イギリスなどで2030年頃から、ガソリン車やディーゼル車の販売を禁止すると発せられ、電気自動車EVへの流れが加速している。町内企業の自動車産業への依存度は。

A 自動車関連の製造出荷額は、3%程度。EV化への影響は少ない。

Q ものづくり支援センターは、事業マッチングなどで成果を上げている。さらに将来に向けて「アジアNo.1航空宇宙産業クラスター形成特区」への参加や、諏訪圏6市町村が

とはあるが、今はやっていない。チームティーチングで複数の教員が入り全体指導の中で個別化もはかり、分ったの気持を大切にしていく。

生徒減で部活は合同部活に

Q 部活の現状と今後の方針は。

A 両校合せて19の部活と顧問の教師は23人、体協に外部指導をお願いしている。顧問の多忙化は、過労化ライン80時間を超えない様にしていく。生徒数減では、本当にスポーツをやりたいという子どもの側に立つて考えて行く。サッカー、野球などは、岡谷西部中や原中などの合同部活を考えている。

進めている「小型ロケットのものづくり技術を生かした人材育成事業」「医療・ヘルスケア機器の参入」などを指導・支援すべき。

A 長期的視野で、事業所支援を行いたい。

町内における所有者不明土地は

Q 町内空き家の実態は。全国的には、相続など行われず、所有者不明の土地が増えている。空き家対策に加えて、新たな対策検討を。

A 空き家調査を2013年以降してないので、来年度行う。所有者不明土地は、町内には多くない。

Q 支えあい・助けあいアンケートの活用を

A 地域の活動に反映しよう



中村 光良

Q 下諏訪町で40才以上を対象に、「地域の支えあい・助けあい」に関するアンケート調査が行われ、集計結果が公表されている。回収率、回答数についての評価はどうか。

A 回収率は38・4%。回答数では4部門全てで4000を超えており充分な数字だと受けとめている。

Q 大変貴重な資料といえる。住民満足度の向上に生かすべきだ。全町的な説明と、今後の取組みの方向性はどう進めていくのか。

A 区長会へは説明した。集計結果は区別・町内会別に集計できるので地域の特性や課題を把握し、支えあいを広めていきたい。アンケートを参考に、福祉計画を策定していく。

支えあい・助けあいの気運が醸成されて、それぞれの地域でグループや場所毎に、活動に取組まれるようサポートしていければと考えている。

ヘルプマークの採用を考えて

Q 外見では解りにくい障がいや病気の人に、温かい対応で接し易くする「ヘルプマーク」の取組みが広まっている。町も採用を検討されたい。

A 普及すれば心強いツールだと認識している。妊婦も含め、県等の動向を注視しながら検討したい。

埋蔵文化財センターのPRを

Q 4月末に開館した埋蔵文化財センターの入館者の動向と、今後へのPR活動の取組みはどう進めるか。

A 8月末現在で5500人、1日平均44人と増えてきている。

Q 国連「核兵器禁止条約」への町長見解は

A 日本政府の不参加は残念



金井 敬子

Q 国連で採択された「核兵器禁止条約」と、条約に背を向ける日本政府の姿勢についての町長の見解は。

A 条約採択は、世界平和を願う人々の思いの結実したものだと思う。

日本の不参加は残念で、政府は核保有国との乖離を取り持つ立場に立ってほしかった。



下中で育つアオギリとクスノキ、あすなろ公園にアオギリ、役場にクスノキも

Q 5年前当町に植えられた「被爆アオギリ2世」と「被爆クスノキ2世」が2本ずつ育っているが、ご存

じない町民が多い。ぜひ、小・中学校での平和教育等の機会に、児童生徒の皆さんに伝え続けてほしい。併せて、各木の看板の定期的なチェックを。

A 各中学校文化祭での広島への平和体験研修の報告や、小・中学校の交流の中で伝えていく。また、育っている木を挿し木で増やして、「3世」として分けていきたい。看板はチェックする。

福祉医療費現物支給は18歳まで

Q 県が決定した子どもの福祉医療費助成の対象範囲拡大に伴い、当町では来年8月から18歳までの医療費

儀象堂の改修工事終了に合わせて、PR活動を広めていきたい。関係施設へ黒曜石を送って展示してもらったり、来年度以降は黒曜石を使った体験メニューなどを用意していきたいと考えている。



オープンした埋蔵文化財センターホール ©Forward Stroke inc.

が「現物給付」になる。子ども以外で福祉医療費助成の対象（障がい者・ひとり親など）も、「現物給付」に変える考えはないか。

A 就学後の子どもや、子ども以外の対象者への「現物給付」には引き続き、国保補助金の減額ペナルティがある。小・中学生分ペナルティの半額は県が支援してくれるが、それ以外は町の持ち出し（合計約1300万円）となるため、困難。

Q 「現物給付」になっても残る1レセプト500円の受益者負担金をなくすることはできないか。

A そのために約800万円が必要で、困難。ご理解を。

Q 湖周2市1町の合併に関して

A 合併論議はされていない



岩村 清司

Q 湖周2市1町の合併は、以前から同じ。広域連合など諏訪は一つという気持ちに、変わりは無い。合併論議はされていない。
A 商工会議所の市町村合併に関するアンケートの結果を踏まえ、合併に関する町民アンケートを実施する必要があると思うが。

6市町村の中で合併への機運はない。町としてアンケートをすることはできない。本年度行なう「満足度調査」で、選択項目の一つに合併に接触した内容もある。そこから意識を探ることもできる。

3市町の工業規模の推移は

Q (従業員4人以上)平成19年〜26年の比較で工業規模は。
A 岡谷市にて事業所数は87減少し、254事業所、従業員数は1万5169人減で7305人、製造出

荷額は217億円減少し1865億円。諏訪市に置いては、事業所は47減少し175事業所、従業員は1299人減少し4428人、出荷額は478億円減って789億円。



下諏訪町は、27事業所減少し74事業所、従業員数は877人減少の

Q 町長と語る会の実績は

A 多くの人の参加で有意義



河西 猛

Q 「町長と語る会」の開催状況、結果をどう受け止めるか。
A 6月23日から7月25日までに、全区10会場で開いた。区長を通じて事前に課題や要望を取りまとめて出

してもらい、意見交換をした。延べ533人が参加。班回覧などを通じて参加を周知。多くの住民の生の声を聞くことができ、有意義だった。身近な課題も出てきたので、しっかりと応えていかないといけない。



町長と語る会

Q 防災リハビリセンターの活用は

Q 防災リハビリセンター跡地の検討状況はどうか。
A 当面は地域に開かれた場所にした

たい。若者や女性などの起業者を呼び込み、地域の担い手を育てて、活性化に。商工会議所、ものづくり支援センター、地域などメンバー30人で検討。将来的な「道の駅」や、ものづくり支援センターの移設先などの構想もあるが、プロジェクトの答申を待って決定する。

Q 子どもランドを、公会所を利用して実施するのはどうか。
A 公会所で実施は制度上可能。

1655人、出荷額は291億円減で170億円まで落ち込んでいる。

Q 特に下諏訪町の減少が顕著で64%減少しているが要因はなにか。
A 下諏訪町においては下請け企業が多く景気変動の影響を受けやすい。受注活動における営業活動や改善活動の課題を抱えている。

又、平成19年に大手企業が閉鎖した影響が大きく、さらに、高齢化に伴い事業継承できずに閉鎖する企業が多く、当町には工業用地が少なく町外へ移転する企業があったことなどが要因だ。

Q 公会所などで開く「にこにこ昼食会」のようなことも食堂は。
A 長期休暇中などに開いてもらえれば有難い。関係者の所へ出向いて、説明もしていきたい。

Q 健康ポイントの交換者は689人

Q 健康ポイントの状況は。
A 6月1日から特定健診に合わせて開始。8月現在で規定の100ポイントを取得した人は689人で、特典(商連商品券かクオカード)に換えた。さらにPRに努める。

Q 諏訪湖博物館の

管理と運営方針は

A 総合的に検討していく



宮坂 徹

Q 今年度は企画特別展示室を使った展示がされていないが理由は。
A 博物館協議会において、収蔵資料の整理を優先し、整理の進捗により収蔵資料展を開催することにして

いる。

Q 入館者の多い夏に企画展示が行われないのは、入館者数にも影響があると思われるが、今年度4月から8月の入館者の推移は。
A 28年度は1913人、今年度は68人の減少に留まっている。

Q 環境維持の観点で、早い時期からの男子トイレの故障が、未だ解消されていないが。
A 昨年度よりから、小便器3器のフラッシュバルブの経年劣化で、水が出っぱなしになったが、2器が使用可能になった。30年度で3器とも修繕の予定。

Q 博物館の運営方針は。
A 昨年度よりから、小便器3器のフラッシュバルブの経年劣化で、水が出っぱなしになったが、2器が使用可能になった。30年度で3器とも修繕の予定。

Q 普通財産の

貸し付け状況について

A 未利用地は今後活用へ



田嶋 彰

Q 普通財産の貸付状況は。
A 下諏訪町で所有している普通財産については平成29年3月末時点で、山林を含めた土地で1218万㎡、建物で5437㎡となっている。土

地建物を合計した普通財産貸付料は平成28年度決算で970万円となっている。

Q 旧第八保育園の活用は。

A 信州大学工学部よりSUWAロケットプロジェクトの実験施設としての活用の話を頂いている。

Q その他の普通財産の活用は。

A 南小プール跡地、社教員住宅跡地、旧第一保育園等があるが活用方法は決まっておらず、検討をしたい。

Q IT関係、デザイン、設計等首都圏の企業のテレワークの施設としての活用はどうか。
A 有効と思えるので検討したい。

A 博物館協議会において、中長期的な計画を立てるための運営方針を、今年度中に策定すると決定した。基本方針案を定め、次回の協議会に諮問できればと考えている。

Q ロビーコンサートのような催しを行う考えはあるか。
A 展示や活動で、コンサートが必要・有効であれば、積極的に取り組んでいく事を考える。

Q 方針として、友の会等住民参加の博物館づくりを考えることは。
A 地域と連携・協力することは重要。事業実施に、知識・技能のある人、学習意欲のある人が積極的に関わり、会を結成してくれば心強い。

Q 博物館づくりを考えることは。
A 地域と連携・協力することは重要。事業実施に、知識・技能のある人、学習意欲のある人が積極的に関わり、会を結成してくれば心強い。



旧第八保育園

子育て支援について

Q 子育て支援の今後の支援計画は。
A 現在、平成27年度から平成31年度までの5ヵ年計画である「下諏訪町子ども・子育て支援事業計画」に



運営方針が待たれる
諏訪湖博物館・赤彦記念館

Q 文化財係を設けることも含め、博物館づくりをどう考えるか。
A 分館等は、色々な皆さんに協力をいただき運営している。諏訪湖博物館・赤彦記念館のあり方は、総合的に研究・検討していく。

沿って進めている。

Q 計画の本身は。

A 質の高い幼児期の学校教育・保育の提供、家庭や地域での子育て力向上、待機児童の解消など安心して子育てが出来る環境を整えるよう基本目標に対する具体的な施策・個別事業を掲げるとともに、保育事業、放課後児童健全育成事業、子育てふれあいセンター事業などを盛り込んでいる。

Q 今後の予定は。

A 今年度が計画の中間年となるため、現状とかけ離れている項目については、子ども・子育て会議の委員に協力を頂き、見直したい。

グラフィティ

〈町総合防災訓練〉



議会基本条例に基づき災害対策支援本部を設置



社協もボランティアセンターを設置



議員もその時に備えて真剣に!



狙いは?!

〈諏訪地方議会議員交流会〉



マレット大会団体は2位!



ユニフォームを揃えているのは下諏訪だけ!

〈長和町との議員研修会〉



「太陽光発電」を学ぶ

〈町村議会改革シンポジウム〉



県内の町村議員 220 名が参加



議員のなり手不足が課題の一つ

議会活動



こども恐るべし



〈お盆駅伝〉

ゆくゆくは諏訪湖一周駅伝に



走る 前に人なし
後に人なし
ボクはアンカー



余裕?の
笑顔



看板も手作り!



〈語るカフェ〉

向陽祭に初めて出店
若さと情熱にパワー
をもらう



〈全国市町村交流しがтта〉



風車の見えるコースで いざ行かん!

〈下諏訪しがтта〉



下諏訪議会 万治くん オウ!



戦い終わって……惜しかった4位



湖岸は
テントの
花盛り
これぞ
町民スポーツ



5月23、6月27、7月27、8月24、この数字は議長として会議や行事に参加した日数です。重なって欠席した会議や行事も多数ありました。歴代の議長がこの重責を担ってきたと思うと、頭が下がります。私がこれからやるべきことは、6月の議会だよりの挨拶で述べさせていきたいと思います。活動する議会でありたい。その思いで「向陽祭」に参加し、「語るカフェ」で高校生と大いに語る機会をいただきました。副議長と議運委員長と看板作り、学生時代のように夢中でした。当日40人位の生徒、保護者や卒業生と語りましたが、若者の素直な



気持ちや考え方に触れ、逆に力をもらいました。自分の進路をしっかり決めて行動している子、まだ決めきれずにいる子、それぞれが目を輝かせて訴えかけてきます。観光にVR（バーチャルリアリティ）を導入してはどうか、電車を待つ間の居場所が欲しい、もっと町の行事に参加したい、などなど。関係のない話が楽しくて、目的を忘れそうでしたが、こんなまちづくりのアイデアや希望もお聞きできました。そして、数多くの若者が帰って来たいと答えてくれました。下諏訪の未来に、この若者たちが関わり、まちが活性化することを願ってやみません。この若者の中から議員が生まれるかもしれませんね。それまで私たちは下諏訪町を守っていかねばと決意を新たにしているところです。

♥♠♣ ◆ お知らせ ◆ ♣♠♥
 議会報告会を、下記のとおり開催いたします。教育・子育て、防災、医療福祉、産業振興の4つのテーマで、皆様のご意見をお聞かせください。多くの皆様のご参加を、お待ちしております。
 日時：11月2日(木) 午後7時～
 場所：下諏訪総合文化センター 小ホール



下諏訪向陽高校
 第36代総長
 戸田 麻稀

私は、生まれてからずっと下諏訪町で過ごし、現在も下諏訪向陽高校に通っています。それは、この町が好きだからです。私は高校で、文化祭実行委員長を務めました。実行委員長に就任してから少し経った頃、議会の

方々とお話しする機会がありました。その時には、「下諏訪町の一つの行事として向陽祭を町全体で盛り上げて欲しい」ということをお伝えしました。すると、議会の方々が向陽祭に参加してくれました。また、さくら、みずべ、とがわの三つの保育園にも伺わせて頂き、向陽祭の宣伝をさせて頂いたところ、一般公開の日にはたくさんの子どもたちが向陽祭に来てくれました。このように、下諏訪町は、議会を始め、多くの方々が、一人のためであっても様々な形で協力してくれるとても素敵な町です。私はこんな素敵な町で生まれ育つたことを、誇りに思っています。私は大学進学のためにこの下諏訪を離れる予定です。しかし、たとえ離れていても、ここは私にとって、自慢のふるさとなのです。

編集後記

今年も議会クルーで、下諏訪レガッタと全国市町村交流レガッタに出場しました。様々な諏訪湖の風景に出会えることは、ボートの魅力の一つ。この夏も、見事な朝焼けの風景に出会えました。
 (K・K)

広報特別委員会
 委員長 宮坂 徹

副委員長	金井 敬子
委員	森 安夫
委員	青木 利子
委員	中村 奎司
委員	岩村 清司